

平成 26 年度 JICA 集団研修 (JICA Group Training Course 2014)

「国際標準を活用した ICT 政策立案能力向上～途上国の解決課題のためのよりよい ICT インフラ整備～」コース

Improving ICT Policy Planning Skills Utilizing Standards

- the deployment of better ICT Infrastructure to overcome challenges -

平成 27 年 1 月 22 日から 2 月 6 日までの約 2 週間、(一財)日本 ITU 協会は、(独)国際協力機構(JICA)からの委託を受けて集団研修を実施した。研修内容は、参加国における国際標準を活用した ICT インフラ整備等の社会問題解決に向けた最適な ICT 政策を検討できるような人材を育成することを目的としたものであり、国際標準を基



総務省表敬

点として、より効果的・効率的な通信インフラの整備について理論的、実践的な研修を実施した。

本研修は、平成 24 年度(前フェーズ)から総務省の協力を得て、当協会が実施しているもので、本年度は、昨年度(平成 25 年度)からの新期 3 年フェーズの 2 年目にあたる。

研修員は、バングラディシュ(2)、ブラジル(1)、クック諸島(1)、マレーシア(1)、ミャンマー(3)、ニウエ(1)、チモール(1)、ジンバブエ(2)の 8 カ国から 11 名が参加した。

研修内容は、日本政府の情報通信に係る政策、ITU の標準化動向、日本の標準化機関等の活動、Inception Report 発表、課題分析手法、関連各企業団体等の標準化活動、Individual Report 発表等の各講義や発表に加え、関連施設の見学で構成された。

日本の通信政策・標準化政策科目として、「日本の電気通信事業政策」(Telecommunications Policy in Japan)、「ICT 分野の標準化について」(Standardization in the ICT Field)の講義を行った。ITU の標準化動向としては、「ICT 分野における標準化と ITU-T」(Standardization and ITU-T in ICT Field)の講義、日本の標準化機関等の活動としては、

「TTC における標準化動向」(Towards global standardization in TTC)、「電波システムの標準化」(Standardization of Radio Systems)の講義を行った。

標準化を実際に機器等に反映させる機関の活動として、「電気通信機器の基準認証制度 : Certification System for Telecommunications Equipment in Japan」, 「HATS 概要: Overview



NICT 視察

of HATS)、「NGN エンド・エンド端末間の相互接続試験: NGN End to End Service Interoperability test - VoIP terminals and HDTV conference systems -」、「光アクセスシステムのための相互接続試験: Interoperability test program for optical access system」の各講義を行った。

政府系研究機関の標準化活動として、「NICT の概要および標準化に対する取り組み」(Research and Development on ICT and standardization activities in NICT)の講義を行った。

上記、日本の通信政策・標準化政策、ITU ならびに日本の標準化機関の活動状況に関する講義に加え、PCM (Project Cycle Management)という分析手法の講義を実施し、研修員の各国における標準化に関する課題の抽出を行うとともに、グループディスカッションにより、研修

員間での知識レベルの共有を図った。さらに、この PCM の講義を、再度、研修の最後の Individual Report 発表の直前に実施し、グループディスカッションを通して、自国の ICT の標準化に係る課題解決方法の策定や、自国の標準化活動の展開等について各自が整理できる機会を与えた。

関連各企業団体等の標準化活動としては、「KDDI の ICT サービスおよび技術の開発戦略」(KDDI's Strategy for Development of ICT Service & Technology)、「将来のネットワークの標準化動向」

(Current Status on Standardization of Future Network)、「移動通信の標準化動向」(Standardization and Mobile Communication Systems)、「放送インフラの構築について」(Setup of Digital Terrestrial Television Broadcasting Network)、「放送と通信の役割・連携について」(The Roles and Convergence of Broadcasting and Communications)、「ハイブリッド・キャストについて」(Hybridcast)の各講義を行った。

施設見学としては、NTT ドコモ、NEC および NICT のショールーム、神奈川工科大学のスマートハウスの各施設を訪問し、各社・団体における新技術の開発、標準化活動等について視察を行い、各社の最新技術、標準化への取り組みなどについて理解を深めた。

NTT ドコモ Show Room "Future Station" では、近未来の移動通信のあり方について、視察した。NEC のショールーム Innovation World において、NEC の最新技術を見学するとと



NTT ドコモ視察



NEC 視察



スマートハウス視察

もに、「ワイヤレス・ブロードバンド・アクセス」(Wireless Broadband Access)の講義を実施した。NICT (独立行政法人 情報通信研究機構:National Institute of Information and Communications Technology)のショールームにおいて、NICT の各種活動の様子を見学するとともに、「NICT における標準化に対する取り組み」(Research and Development on ICT and standardization activities in NICT)の講義を実施した。さらに、神奈川県工科大学の「HEMS 認証支援センター:Interoperability Test Center of KANAGAWA Institute of Technology」では、実際のスマートハウスを視察し、家庭用の各種機器の標準化の重要性について再認識すると共に、「スマートハウスの現状: Current Status of Smart-Houses」の講義を行った。



NHK 視察



閉講式

研修の最終日には、各研修員による Individual Report の発表を行った。Individual Report は研修員各自の自国の標準化活動の状況と今後の展開等を本研修の成果とからめて PCM 手法等を用いて整理したもので、各国の ICT に係る標準化活動の展望について活発な議論が行われた。

本研修コースは、研修員からは、概ね良い評価を得ているが、(一財)日本 ITU 協会は、より満足の得られる研修としていくために、研修終了時に研修員より講義内容、テキストおよび施設見学に対する評価、意見ならびに要望等を聴取し、これらの評価結果を分析、検討し、コース実施上の問題点を明らかにし、次年度以降のプログラムに反映させる考えである。

以上